

<株式会社エフエム東京 第 4 3 6 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 29 年 3 月 7 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（4 名）

横 森 美 奈 子 委員長	渡 辺 貞 夫 委員
内 館 牧 子 委員	川 上 未 映 子 委員

◇欠席委員（2 名）

ロバート キャンベル 委員	秋 元 康 委員
---------------	----------

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
森 田 編成制作局コンテンツ開発特命担当 兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 営業局 エグゼクティブ・プランナー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
高 橋 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴（約 30 分）
『山下達郎サンデー・ソングブック』
2017 年 3 月 5 日（日）14:00～14:55 全国 38 局ネット

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

■民放ラジオ 101 局特別番組の企画制作について

一般社団法人日本民間放送連盟ラジオ委員会のもとで構成される「広報戦略部会」では、毎年ラジオメディアの価値向上に向けての様々な施策を講じていますが、本年は初めての試みとして「民放ラジオ 101 局特別番組」を実施することとなり、当社が責任幹事社として本特別番組を企画制作します。

【番組概要】

放送日時 2017 年 3 月 20 日（祝・月）19 時～20 時（各局放送時間違い）

放送局：民放 101 局

番組タイトル：「WE LOVE RADIO!～山下達郎・星野源のラジオ放談」

企画意図：ラジオを長く愛してくれているリスナーと、まだラジオに触れたことのない若者層と一緒に共感する、ここでしか聴けないプレミアムな音楽エンタテインメント番組を、3 月 20 日に民放ラジオ 101 局で同日夜に放送します。

出演は、TOKYO FM 系列「サンデー・ソングブック」が 25 周年を迎えるミュージシャン山下達郎と、ニッポン放送の深夜番組「オールナイトニッポン」パーソナリティを務め、昨年「恋」の大ヒットで全国区人気となった星野源。ラジオ愛と音楽愛に溢れた、世代を越えた二人の初の顔合わせが実現します。

番組では、お互いのラジオ初体験の思い出、現役パーソナリティとして実感している映像や WEB メディアでは届かないラジオならではの価値、これからのラジオの未来について、対談します。さらに、この特番のためにそれぞれのヒット曲のスペシャルライブも披露。放送に向けて FM・AM の垣根を越えて 101 局社共通の WEB サイトを制作、全社での番宣 PR、radiko のシェアラジオ機能の促進など広報活動も徹底させ、ラジオメディアの価値を広く訴求します。



3 月 3 日（金）18 時に情報解禁を行い、この特別番組への期待に SNS 上では大きな反響が起きています。（別紙参照）

■「安部礼司フェスティバル 2017～飯野とサトミのウェディングパーティー～」を開催

1月22日(日)、横浜の日産グローバル本社ギャラリーで「安部礼司フェスティバル 2017～飯野とサトミのウェディングパーティー～」を開催。平均的なサラリーマンの日常を描く、人気ラジオドラマ「NISSAN あ、安部礼司」のキャストが番組を飛び出し、番組キャラクターの結婚披露宴というイベント形式で行い、全国からのべ24,000人のリスナーが訪れました。番組のレギュラー出演者の他、番組と縁のある渡辺美里とゴスペラーズもゲスト出演、ライブパフォーマンスも披露し、イベントに華を添えました。当日17時から公開生放送を行い、訪れたリスナーを前に全国のリスナーに結婚の生報告をしました。



▲参加リスナーと集合写真



▲渡辺美里によるライブ



▲会場の様子

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○山下達郎さんと星野源さんの組み合わせはとても良い。知った時、素直に嬉しい驚きを感じた。

○スペシャルライブというのは本当に楽しみ。歌とトークの割合はどんな感じなのか？

■かなりトークが盛り上がって、当初の予定を変更して制作をしているところ。2人は初対面だったが、話せば話すほど、共通点が出てくる。波長の合った良い収録となった。

○この収録が初対面だったのか？事前に打ち合わせ等があったのか？

■収録当日に初対面だった。もちろん構成などのやり取りは番組チームがそれぞれに対し行っていたが、顔を合わせの打ち合わせは収録の前に初めて行った。

○星野源さんはどのような活動をしているのか？歌手だけではなく俳優などもしていると聞く。

また音楽はどのようなものなのか？いわゆる「うるさ型」の人からも評価されるものなのか？

■歌手以外に、劇団・大人計画の俳優でもある。音楽については、もともとは「SAKEROCK」というインストバンドでマイナーなところで活動していたが、それが拡がって FUJI ROCK などにも出演していた。ミュージシャンからの評価も高い。

○星野源さんの楽曲をラジオで聴いたとき、昔のポップスとか、昔のソウルミュージックのようなノスタルジックなテイストを感じた。これは誰だろう、と思っていたら星野源さんだった。モータウン系の音楽を聴いてきた私たち世代には親しみが感じられる。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『山下達郎サンデー・ソングブック』

【放送日時】 2017年3月5日（日）14:00～14:55 全国38局ネット

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、3月5日（日）に放送した『山下達郎サンデー・ソングブック』のダイジェストです。「最高の選曲を、最高の音質で」をテーマに、山下達郎の個人コレクションからの選曲で毎週お届けしている番組です。

本日お聴きいただくのは、3月1日に78歳でお亡くなりになりました、日本のロックンロールの草分け的な存在であったかまやつひろし氏を偲び、山下達郎が予定を急きょ変更して収録に臨んだ追悼特集です。

かまやつひろし氏が日本ロックンロールの黎明期に行った様々なトライ、音楽的実験など、フォーク系でも歌謡系でもない、ロックンロールな作家・かまやつひろしの特集となり、他の追悼番組とはひと味違う、山下達郎らしい追悼特集となりました。

当日のオンエア曲

- フリ・フリ / 田辺昭知とザ・スパイダース
- へい・ボーイ / ザ・スパイダース
- バン・バン・バン / ザ・スパイダース
- 恋のドクター / ザ・スパイダース
- 君なき世界 / ザ・スパイダース
- エレクトリックおばあちゃん / ザ・スパイダース
- ボブ・ディランは今、何を考えているか? (What Happening Mr.Dylan)
/ ザ・スパイダース
- お先にどうぞ / ザ・スパイダース

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○追悼番組として素晴らしいと思った。山下達郎さんのコメントが適切で、追悼番組を山下達郎さんの番組で行ったことはとても良かったと思う。

○いつの世の中も若い人の音楽というのは、大人たちからすると、どれも同じに聴こえてしまう。今、紅白とかを見ているとそういう音楽が続くとトイレに席を立ててしまうもの。もしかしたら、私が若い時の大人たちも同じ風に思っていたかもしれない。音楽は時代と共に変わるなあと思った。しかし、若い人はいいものがちゃんと分かるんだなあ、と思った。年末に音楽番組で、大御所の曲を、若いアーティストが身を乗り出して聴いていて、そう思った。いいものは時代を超えて良い。番組を聴いて素直に、とてもバランスの良い追悼特集になったかと思った。

○海外から 1965 年の暮れに日本に戻って来て、その時テレビの番組でスパイダースを見た。それまで日本のテレビ番組は歌謡曲だったが、スパイダースが現れて、個性があってももしろいグループが日本でも現れたなって思った。

○かまやつさんの曲は、もっとたくさんのジャンルのものがあったのに、ロックに傾倒していたなと感じた。もう少し歌のある曲があってもいいかなと思った。

■ご指摘の通り、かまやつさんの楽曲は幅広く紹介していくべき価値があると思う。

■3月1日にかまやつさんの訃報のニュースが入って来て、その日はメロディのあるヒット曲を各番組で流した。週末に放送したのがこのようなこだわりのある番組。山下達郎さんのお力なくしてはできなかった。

○こだわりのある追悼番組とのことですが、一般的な間口の広い追悼番組というのはどういうものか？

■いわゆるスパイダースのヒット曲を流す番組で、そこに本人のいところが森山良子さんだとかそういう芸能的なコメントをさし込んでいくものになると思う。

○スパイダースは、存在については良く知っていたが、リアルタイムでも後追いで今までそんなに聴いてこなかった。このようにまとめて聴くのは初めてかも知れない。追悼という形はとても残念なことであるが、山下達郎さんのコメントと一緒に聴けたのは良かった。山下達郎さんは、かまやつさんと音楽的な付き合いはあまりないと言っていたが、だからこそなのか、公正というか、音楽的にかまやつさんに対するリスペクトのある追悼番組だと感じた。聴いていて、ミュージシャンがミュージシャンを追悼するというのは、すごくいいなあと思ったのと、（良い意味で）余計に悲しくなった。

○山下達郎さんにとっての、ムッシュかまやつさんを表現した追悼番組だったと感じた。他がやったらまた違うんだろと思うし、それも聴いてみたくなった。

○山下達郎さんのコメントはかまやつさん初心者にとっても親切な番組だった。

○追悼番組は難しいと思うけれど、今回は山下達郎さんの切り口がすごくはっきりしていた。主観がないと、ただのデータの寄せ集めでぼやっとしてしまうかもしれないが、山下さんの切り口はとてもはっきりしていて、聴いていておもしろかった。

○最高の音質で、と言っているが、確かに音質が素晴らしい。リミックスか何かをしているのか？

■山下達郎さんがラジオ放送用に毎回音源をリマスタリングしている。

○洋楽育ちなので、いろいろ聴いていたが、かまやつさんは洋楽のコピーではない和製ロックを作っていたんだなあと新たに感じた。歌謡曲っぽいを出さないと売れないという時代だったような気もするので、かまやつさんは真っ当に勝負していたんだと思う。

○かまやつさんに興味があり、もともとよく知っていたつもりだがそれでも知らない曲がいくつかあって、いろいろ気付きのある番組だった。インストの曲なども本当にすごいなと思った。

○最初に流した「フリ・フリ」はライブ音源だったと思うが、ライブ音源なんて素材で聴いたことがない。この音源をお持ちだったのか？

■山下達郎さんご本人のコレクションとしてお持ちだった。

■この番組は、ほぼオールディーズを選曲するのがレギュラーになっているが、今の CD に匹敵するように山下達郎さんがリマスタリングして持ってきてくれたものをかけている。今のヒット曲と遜色のない音質になっている。

○それは毎週やっているのか。

■毎週やっていただいている。

○かまやつさんの音源はラジオなどでもかかるが、この追悼番組はそういうものとは全く別物だったように思う。

○追悼番組として特別に枠を設けることもあるが、今回のように山下達郎さんの枠で扱ったのには意味があるのか？

■山下達郎さんご本人からの大好きだった先輩かまやつさんへのお気持ちがあり、今回の企画となった。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

3月25日(土) 7:00～7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7. その他

次回の放送番組審議会を、4月4日(火)に開催することを決めた。